

「忍者パルクール Online 世界大会 2021」への運営参画

団体名●池田ゼミナール／代表者名●池田幸應(人間科学部スポーツ学科教授)

はじめに

1964年の「東京オリンピック」から半世紀が過ぎ、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の中、開催準備が進められている。2015年10月にスポーツ庁が設置され、全国的にスポーツツーリズムやスポーツによる地域活性化への取組が推進されており、金沢市においても「金沢市スポーツ推進計画」(2015～2024年度)により、金沢の風土に根付いたスポーツ文化推進による地域振興が図られている。2018年5月に初めて「忍者パルクール2018 in KANAZAWA」(全国大会)が金沢城公園内で開催され、筆者も大会実行委員、池田ゼミナール学生もスタッフとして運営に関わった。この継続活動として、本年度は、「忍者パルクール Online 世界大会2021」として、オンラインでの大会を開催した。

活動内容

世界最大級の「忍者パルクール Online 世界大会2021」は、世界15か国から150名の参加(年齢は5歳～)があり、4か月間にわたり競技大会が行われた。この忍者パルクール競技は、全世界にSVSで配信(Facebook, Instagram, TikTok)され、動画観戦回数は165万回を記録した。また競技審査は、世界4か国の審査員に加え、学生審査員60名が参加した。更に、SNS観戦者も「いいね！」で審査に加わることができ、世界中から7.2万人の「いいね！」投票が行われた。一次審査は、本学ゼミナール学生を含む日本人大学生60名と「いいね！」による総合評価で、50名が選考され、二次審査は、世界4か国の審査員(筆者を含む日本人、フランス人、中国人、シンガポール人、合計6人)が5項目評価(難易性、連続性、正確性、創造性、印象度)を行い、さらに「いいね！」投票数が加味されてベスト8が選ばれた。ベスト8からはトーナメント形式で試合が進行し、優勝決定戦、3位決定戦が実施された。その結果として、フリースタイル競技個人戦優勝者は中国人、準優勝者はロシア人、3位、4位はイラン人のパルクール競技者でした。日本人選手はベ

スト8に入賞し、その他、アンダー10賞、ベスト風景賞、スポンサー特別賞の各賞を受賞した。

成果、結果の考察

今回、昨年度の2回目の「忍者パルクール in 金沢」とは異なり、ゼミナール学生は、オンラインでの各選手の演技視聴及びその判定に直接関わった。昨年とは異なり、フィールド現場での直接的な子どもたちへの関与はできなかったが、今回の活動を通して、「スポーツで全世界がつながっている」という実感を持ち、スポーツの可能性について学ぶことに大きくつながったものと考えられる。



オンライン一次審査会の様子



オンライン審査動画の様子(Xiaoqiang Yang: 中国)

今後の課題、展望

今回は、新型コロナウイルス感染防止上、完全オンラインでの実施であったが、来年度は、遠隔の利点活用しながら、「忍者パルクール in KANAZAWA」を継続発展させ、「学都金沢」の特徴を活かし、より多くの大学間連携による忍者パルクール」を金沢の地から世界に向けて発信して行きたい。